# 榛名神社社報

発行日 昭和五十七年七月一日
発行所 沼田市榛名町二八五一
電話(二)三六(四)五一二二
発行人 金子安平


## 榛名神社由緒記

### 三柱を祭神とし更に

埴山姫命（はにやまひめのみこと）（生命守護の神）
倭建命（やまとたけるのみこと）（土地守護の神）
菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）（学問守護の神）

建御名方命（たけみなかたのみこと）（諏訪様、産業神）
大国主命（おおくにぬしのみこと）（良縁結びの神）

明神の神名をおろし、古くは上野国名帳に「従一位乳高明神」と記されて以来、古くは昭和三年県社に列せられた大利根の総鎮守です。

当社は沼田氏・真田氏・黒田氏・土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由緒の品が今も保存されて居ります。

特に本殿は、豪壮華麗な桃山様式を誇るもので、七年越し真田信幸公の寄進であります。尚、境内には正徳神社と豪華な彩色彫刻の拝殿が美しく飾られます。

『榛名神社由緒記』は、沼田市教育委員会の『沼田市史』（会館巴）とがあって関越新幹線建設の際に発掘されました。

## 社頭講話　お宮参りの意味

私等日本人はすべて神様と一緒に暮して居ります。自分一人だけで生きているのでは人恐らくありません。事実私等は生れてから死ぬまでず一と神様と一緒なのです。もっと深く考えれば、母親の胎内に宿る時から死んでの世（あっくりよ）に逝って後後でも神様の御図を受けて居るのであるから日本人の生活は何時も頂戴に一所懸命なのである。

だからこそ知れば知るほど悲しい時でもいろいろの苦しくても何処でも神様の御恵みの中に生きて行くのです。世の中は自分だけが不幸だと云って悲しんでいる人が多いです。しかし、神様は人をして生かせたいからこそ、何時でも不幸にしておいでなんです。神様は誰でもお平に御安泰を下さいます。何処迄でも温かい御恵下さいます。何処迄でも明るく御計して下さいます。

「神様の中で最も大切なのは氏神様です。氏神様の中で最も大切なのは産土の神様です。だから産土の神様は何時でもずっと近くに行って何の職業につうっと産土の神様に祭られて居ります。

## たべものとまつり

たべものの上に云のは、家のお祭りの中に神様に捧げたものを神さまからの恵みとして頂くものーと給うものーたべものの一と言葉からの言葉の一つです。昔は家の務がありましたからたべものの姿だと私は心の底から信じて居ります。

たべものを食べることは、神さまに捧げたものを頂くものーと給うものーたべものの一と言葉からの言葉の一つです。昔は家の務がありましたからたべものの姿だと私は心の底から信じて居ります。

やうに、この世の中は自分だけが不幸だと云って悲しんでいる人が多いです。しかし、神様は人をして生かせたいからこそ、何時でも不幸にしておいでなんです。神様は誰でもお平に御安泰を下さいます。何処迄でも温かい御恵下さいます。何処迄でも明るく御計して下さいます。

特に本殿は、豪壮華麗な桃山様式を誇るもので、七年越し真田信幸公の寄進であります。尚、境内には正徳神社と豪華な彩色彫刻の拝殿が美しく飾られます。

『榛名神社由緒記』は、沼田市教育委員会の『沼田市史』（会館巴）とがあって関越新幹線建設の際に発掘されました。

## 開運

東京　中川正光

不幸の中には幸福が包まれている
よく反省してその包みをとくのだ
幸福の中には不運が包まれている
感謝しないとその包みが破れるぞ

## 先ず安全祈願　そしてマイカー

榛名神社のお宮参りの方々は、氏子繁栄・郷土発展を祈りまして、次は、「先ず安全祈願」、そしてマイカーーなら日月「先ずお全祈願」、そしてマイカーーなら日月よく反省してその包みをとくのだ。

## 先ず地祭り　そしてマイホーム

「マイホームを建てる場合は「地まつり」をしましょう。

地祭りは屋敷の清めを行い、住居を守るのです。工事の地祭りは清めを行なう事により工事の安全を守ります。地祭りは、地鎮の意味合いもあります。地鎮とは、地祭りを行なって御願いする日本独自の民俗です。地祭りを忘れたために不思議な病人が出たり不運が続いたりする。交通事故・火災など思ったことはそうゆう家に起きがちです。

## 神事を先にし他事を後にせ

これは順徳天皇の祭祀の中のお言葉であって日本人として心掛けを簡素に教えられたものである。

## 氏子解説

目先に行事に於て神に仕える事を先神事以外の事は神事の後で行って

榛名神社の氏子は、古くは「氏子」と呼び、各々は氏子と云う。常に申いられている言葉であるが、その意味を説明しましょう。

「ある土地に住んでいる人々が、その土地の神を祭られる氏族の先祖の神を祭るのが日本の習俗である。この場合、氏族の先祖の神を祭るのが氏子の祭るのが氏子である。そして何れも同じ氏族の集団であった。

氏子は、時代の進むにつれて、氏族の集団の中に他の氏族の者が、入って生活することが増加し、同じ祭りにお祭に参加した。つまり、氏神でなくても氏族の中に氏子でなくても氏子になり、お祭りに参加した。そこで氏神は鎮守さまと呼ばれるに至る。祭る方は氏子中と呼ばれた。

このやうに氏神から鎮守になったけれども、「うぶすな」の言葉は、ずっと伝承されてきたから、うぶは産（うぶ）でありつ今では出ぶ土地の意味である。「うぶすな」は、氏子は氏神の社を祭る地域に住む世帯を氏子の制度は、氏子は氏子名前を登録されると定められている。

氏子は氏神社の運営に参加して、氏子会費として一神社を維持する義務を持つ。榛名神社では、氏子会費として一世間二〇〇円を醵出して頂く様に古くから鎮まって氏子の繁栄・土地の発展・郷土の総合開発に心を垂れ給う。氏子はその恩を蒙って生活している。

氏神は神社の土地に古くから鎮まって氏子の繁栄・土地の発展・郷土の総合開発に心を垂れ給う。氏子はその恩を蒙って生活している。

氏子は、氏子名前を登録されると定められている。

氏子は、氏子名前を登録されると定められている。

氏子は、氏子名前を登録されると定められている